

柳井医療センター だより

令和5年 10月

〈発行所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
宮地 隆史

院長 宮地 隆史

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して約5か月が経過しました。10月以降は医療体制や公費支援体制の変更があります。新型コロナワクチンの秋接種も開始されました。また、冬シーズンに流行していたインフルエンザは国民のインフルエンザに対する免疫力の低下のためか夏季にも流行しています。各自が流行状況に適切に対応していくことが重要です。

さて、9月は多くの考えていくべき「日」があります。今年、特に関心があった「日」は9月1日の「防災の日」と9月21日の「世界アルツハイマーデー」です。

今から100年前の1923年9月1日に関東大震災が発生しました。死者・行方不明者は推定10万5千人で3日間にわたる火災による焼死が多かったと言われています。1995年1月17日の阪神・淡路大震災では圧死が、東日本大震災では溺死が多いなど甚大な被害が繰り返されています。「防災の日」は、関東大震災の発生した日にちなみ1960年に内閣の閣議了解により制定され「災害への備えを怠らないように」との思いが込められています。2021年5月に災害対策基本法等の一部改正が公布・施行されました。災害に対する要配慮者のうち災害時避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成が市町村の努力義務となりました。また福祉避難所の確保・運営ガイドラインの改定も行われました。主な改訂の要点は指定福祉避難所の指定及びその受入対象者の公示、指定福祉避難所への直接の避難の促進などが挙げられます。難病患者、認知症患者、高齢者等は災害時避難行動要支援者であり災害等のリスクに応じて個別避難計画の作成を促すとともに自助・共助（互助）についての地域啓発が重要と思われます。

9月21日の世界アルツハイマーデーは1994年9月21日にスコットランドのエジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会の国際会議が開催され初日の9月21日を「世界アルツハイマーデー」と宣言したことにより始まり、国際アルツハイマー病協会と世界保健機構が共同で認知症の啓発活動等を行っています。アルツハイマー病については2023年8月21日に厚生労働省専門部会がアルツハイマー病治療薬である抗アミロイドβプロトフィブリル抗体「レカネマブ（レケンビ?）」の製造・販売を承認し2023年9月25日に正式に厚生労働省で承認されました。今後、保険適用や適正使用のための指針が検討されます。これまでは神経伝達物質に注目した症状改善薬のみであったアルツハイマー病に対してアミロイドβを標的にした疾患修飾薬が臨床の場に用いることができるようになります。アルツハイマー病治療におけるパラダイムシフトになりうることで喜ばしいことですが、治療効果はまだ限定的であること、早期アルツハイマー型認知症（軽度認知障害と軽度アルツハイマー型認知症）が対象であり進行している場合は使用できない可能性が高いこと、個々の患者について髄液検査等でアミロイドが関連していることを証明しなければならないこと、2週間に1回の点滴治療であること、高額であること、アミロイド除去に関連した脳出血や脳浮腫が一定の割合で生じることなど課題があります。柳井医療圏域でもどのようにアルツハイマー病の新薬への対応ができるか認知症医療提供体制の検討が必要です。

最後に、第9回柳井医療センター市民公開講座のご案内です。2023年10月29日（日）「アクティブやない」において認知症治療、新型コロナウイルスなどについての講座を行います。興味のある方はぜひご参加ください。

理 念

- 一 良質の医療を提供します
- 一 素晴らしい療養環境を提供します
- 一 患者満足度の向上に努めます
- 一 職員満足度の向上に努めます

医師コラム

大学院について

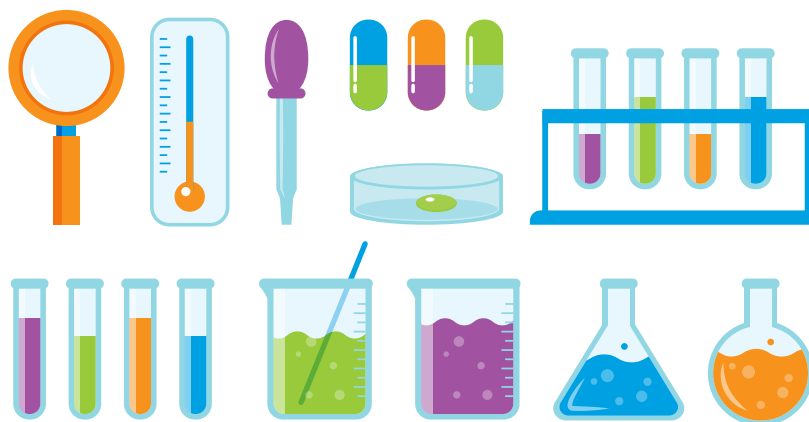


外科医師
田所 剛志

はじめまして。外科として令和5年4月から柳井医療センターに赴任してきました、田所と申します。私は現在、広島大学消化器・移植外科の社会人大学院生として週1.5日研究を行いながら、残り3.5日を当院で勤務させて頂いております。今回の医師コラムでは、その大学院や研究について紹介しようと思います。

私は現在肝臓グループに所属し、肝臓に関する基礎/臨床研究に励んでいます。基礎研究とは細胞やヒト以外の動物を対象として行う研究のことで、細胞培養やマウスを用いた実験に取り組んでいます。具体的には、血管内皮細胞に発現しているトロンボモジュリンというタンパク質が癌を抑制するという仮説を、トロンボモジュリンの発現が欠損したマウスに発癌性物質を投与し、正常マウスと比較し癌の動きを観察する研究です。もう一つは、今後取り組んでいく予定なのですが、陰圧をかけながら様々な細胞を培養し、細胞動態や免疫細胞などを観察していく実験です。また、臨床研究では、前向きの特設臨床研究に携わらせてもらっており、企業や広島大学臨床研究開発支援センターの方々と相談しながら、まずは倫理審査に承認されるように研究計画書の作成など行っております。

簡単ではございますが、以上で紹介文とさせていただきます。今後も、当院で臨床を行いながら、研究も取り組んでいけるように精進いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。





第9回 柳井医療センター 公開講座



令和5年10月29日(日)

開場 12:30・開演 14:00



アクティブやない

多目的ホール (柳井市柳井3718-16)



○ 開場・受付・健康チェック 12:30～

健康チェック 【認知機能検査 (20名)、血管年齢測定 (20名)】
※それぞれ先着順に整理券を配布します。

○ 開会挨拶 14:00～ 柳井医療センター 院長 宮地 隆 史

○ 来賓挨拶 柳井市長 井 原 健太郎 様

○ 講 演 14:10～15:55

講演1 「脳神経内科疾患～主に神経難病～について」

副 院 長 今 村 栄 次

講演2 「脱腸の治療『腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復手術』について」

外科医長 松 岡 功 治

【 休 憩 14:50～15:00 】

講演3 「新型コロナウイルス感染症との上手なつきあい方」

感染管理特定認定看護師 吉 野 由紀子

講演4 「認知症と共に～笑顔で生活できる考え方、ケアのコツ～」

認知症看護認定看護師 河 原 明 子

講演5 「認知症の薬物治療について」

院 長 宮 地 隆 史

○ 閉会挨拶 15:55～16:00

副 院 長 今 村 栄 次

【主 催】 国立病院機構 柳井医療センター 認知症疾患医療センター
柳井市伊保庄95 TEL 0820-27-0211 URL: <https://yanai.hosp.go.jp>

【後 援】 柳井市/柳井医師会/山口県柳井健康福祉センター



地域医療連携室コーナー

令和5年度 神経難病研修会開催のお知らせ

令和5年 **11月11日(土)** 13:30~15:30 (受付13時~)

柳井医療センター大会議室にて神経難病研修会を開催いたします。

対象者は医療・介護従事者です。

今年は多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症等について、基礎知識の研修と多職種での検討会を行う予定です。

この病気について初めての方も知っているけど対応する機会が少なくていざ担当になって困っている方などぜひご参加いただけますと幸いです。

お問い合わせ先：地域医療連携室

職員募集

柳井医療センターでは職員を募集しています。
育児等によるブランクや、経験に不安があっても大丈夫。
再就職支援にも力を入れています。

- 募集職種**：看護師（常勤）
 - 業務内容**：病棟や外来における看護師業務
 - 応募資格**：看護師免許(令和6年3月31日までに取得見込含む)
 - 採用時期**：令和6年4月1日(令和5年度も随時募集中)
- ◆そのほか看護助手・療養介助員・事務助手（ともに非常勤）も募集中

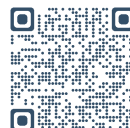
お気軽に
お問い合わせ
ください



連絡先

〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95番地
電話番号0820-27-0211（内線322）
管理課 庶務係長まで

※詳しくはこちら→



認知症疾患医療センターコーナー



令和5年7月25日に「第8回認知症医療・介護従事者研修会」を開催いたしました。

ここ数年はコロナ感染症の影響でWEB開催や人数制限を設けての開催でしたが、今年度は人数制限を設けることもなく、久々に当院の大会議室を全面開放したなかで開催できたことをとても嬉しく思います。

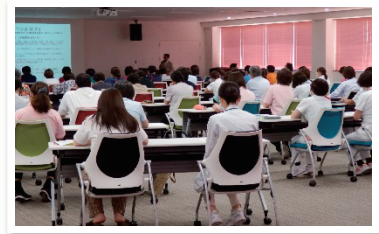
当日は、当院副院長今村医師が「なおる認知症・なおらない認知症」と題して講演を行いました。一言で認知症と言っても記憶障害を中心に見当識障害や失語・失認・失行機能の障害、妄想や不安といった精神症状、徘徊や収集癖といった行動障害等の様々な症状があること、硬膜下血腫、正常圧水頭症や甲状腺機能低下症等の場合は治療することで認知症状が改善されるため「なおる認知症」と言われていること、また若い時期から中年期の対策が認知症の予防に効果があるかもしれない！など、大きなテーマではありましたが、とても分かりやすい講演だったように思います。

講演最後には、アルツハイマー型認知症の新薬についてお話がありました。アメリカに続き日本でも「レカネマブ」が承認されました。本研修会はアメリカで承認された直後ということもあり参加者の多くが「レカネマブ」に関心を持たれていたのではないのでしょうか。年内の使用開始を目指し、最終段階での調整が進められている「レカネマブ」の今後の展開に期待していきたいところです。

質疑応答では、レビー小体型認知症とパーキンソン病による認知症の判断がつきにくいので、判断基準があれば教えて欲しいとの質問に対して、最初の症状(認知症状かパーキンソン症状)から1年以内にもう一方の症状がでたらレビー小体型認知症の可能性が高いと言われているとの回答がありました。レビー小体型認知症かパーキンソン病を主とした認知症かで、制度やサービス提供の内容が変わってくることがあるため、支援する側としてもレビー小体型認知症かパーキンソン病による認知症か気になるところの様です。介入するには認知症状とパーキンソン症状のどちらから始まったのか？もう一方の症状はどの位経って出現しているのか？少し意識して介入してみてください。

本研修で印象に残ったこと等について、アンケート結果より一部ご紹介させていただきます。

- ・なおる認知症・なおらない認知症というタイトルのインパクトが強かった。
- ・認知症の危険因子・防御因子がとても分かりやすく、今後にいかせる内容だった。
- ・若い時期～中年期からの対策が効果的であるということが興味深かった。
- ・認知症の方とかわる中で、その人の背景が大事。
- ・予防について自分たちの事業でもひろめていきたいと思った。
- ・何においても初期での対応が必要と感じた。ただ、それに気付く・対応するためには、ますます住民周知・医師との連携も必要になってくると思った。



参加者の多くの方に満足していただけた内容だったようです。

ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

病院の統計

一般病床204床、療養介護病床76床				
年 月	当院平均 患者数(人)			紹介患者数(人)
	入 院		外 来	
	一 般	療養介護		
R5.8	195.8	73.7	60	71
(R5年度計)	188.3	74.8	60.8	355

【紹介率】 単位：％

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計平均
R 4	86.7	90.9	79.6	79.4	87.0	88.1	79.6	90.2	83.1	89.5	84.5	86.3	85.1
R 5	88.8	79.8	80.0	92.9	82.8								83.6

【病床利用率】 ※一般病床のみ 単位：％

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計平均
R 4	95.1	93.0	95.3	95.9	95.5	93.9	92.8	96.9	95.1	92.3	93.7	91.8	94.2
R 5	89.6	92.3	92.5	91.1	96.0								91.0

外 来 診 療 担 当 表

		月	火	水	木	金	備 考
内 科		—	まつもと 信夫 のぶお	—	まつもと 信夫 のぶお	まつもと 信夫 のぶお	要 予 約
脳神経内科	初 診	いまむら 今村・宮地 みやち	ふくば 福場 ひろまさ	にしかわ 西川 智和 ともかず	やまさき 山崎 雅美 まさみ	いもん 井門 和貴 かずき	要 予 約
	再 診	にしかわ 西川 智和 ともかず	いもん 井門 和貴 かずき	みやち 宮地 隆史 たかふみ	みやち 宮地 隆史 たかふみ	ふくば 福場 浩正 ひろまさ	
	再 診	ふくば 福場 浩正 ひろまさ	—	いまむら 今村 栄次 えいじ	にしかわ 西川 智和 ともかず	やまさき 山崎 雅美 まさみ	
外 科	初 診	たどころ 田所 剛志 たけし	たけもと 竹本 将彦 まさひこ	すみもと 住元 了 りょう	まつおか 松岡 功治 こうじ	まつもと 松本 富夫 とみお	火・木曜日 午後手術日
	初 診	なんば 難波 洋介 ようすけ	なんば 難波 洋介 ようすけ	—	すみもと 住元 了 りょう	—	
	再 診	たけもと 竹本 将彦 まさひこ	まつもと 松本 富夫 とみお	—	たけもと 竹本 将彦 まさひこ	まつおか 松岡 功治 こうじ	
	再 診	—	—	—	—	たどころ 田所 剛志 たけし	
腎 臓 内 科					たかはし 高橋 輝 あきら		
整 形 外 科				たなか 田中 晶康 てるやす	かわばた 川端 紳悟 しんご		
循 環 器 内 科		こばやし 小林 佑輔 ゆうすけ		おくし 小栗 直人 なおと			
呼 吸 器 内 科			かわもと 川本 数真 かずま			いそやま 磯山 正子 しょうこ	
肝・胆・脾・消化器科		つげ 柘植 雅貴 まさたか					
糖 尿 病・内 分 泌 内 科						おおの 大野 晴也 はるや	
内 視 鏡		まつもと 松本 信夫 のぶお		まつもと 松本 信夫 のぶお		第1・3週 まつおか 松岡 功治 こうじ	要 予 約
		まつおか 松岡 功治 こうじ		まつおか 松岡 功治 こうじ		第2・4週 はまだ 濱田 拓郎 たくろう	
皮 膚 科			(隔週) まつばら 松原 大樹 たいしき やなぎだ 柳田のぞみ				
泌 尿 器 科		いわた 岩根 亨輔 きょうすけ					午後のみ

は広島大学病院医師

令和5年10月1日現在

腹部救急診療

24時間365日体制で診療しています。

対象患者
激しい腹痛、心窩部痛、
側腹部痛、腰痛、肛門会陰部痛、
鼠径部痛、下血症例



救急担当医は次のようになります。(※時間外の体制)

	月	火	水	木	金	土	日
担当医	難波	松岡	松本(富)	竹本	当番外科医	当番外科医	当番外科医

※消化器外科医が病院内に24時間365日常駐しています。

CT・MRIの検査予約を受付ています

当院では、CT及びMRIの検査予約を行っています。
下記の連絡先に予約を申し込んでください。放射線専門医
による読影結果はFAX及び郵送にてお届け致します。撮影
画像はCD-Rで患者様にお渡し又は郵送致します。
(至急依頼の場合の検査報告は検査後2時間ほどで出ますの
でFAX後、郵送致します。)

CT・MRIの予約受付先

国立病院機構柳井医療センター放射線科受付
担当者 山本(やまもと)

電話:0820-27-0211 内線538または229

※なお、FAXでの申し込み及びその他の診療予約については地域医療
連携室へ申し込んでください

